



特集：企業の取り組む地域貢献のひとつのカタチ



「私たちの会社には“人と地球にやさしい暮らし方を衣食住で提案する”という理念があって、それと合致する活動を支援したいと思い、助成金を創りました」株式会社 ecomo（以下、ecomo）の宇多川さんはそう語りました。個々の市民活動団体には「自然環境を守る」、「障がいのある人にやさしい社会を作る」などのミッションがあります。同じように、企業においても社はや経営理念で、社会の中での役割や目標などが示されています。

お話をうかがったのは、藤沢市内にある ecomo のショッピン

グモール内でした。倉庫を改装した店内には、オーガニック Cotton の衣料品や、有機農法の野菜に無添加の調味料、海洋への影響が小さい洗剤など、環境や人体に配慮した商品が並びます。ecomo は元々、自然素材の建築業をやっていて『生活に関わるのは家だけではない』とショッピングモールなど衣食住に関わるお店が始まりました。衣食住で理念を活かした事業をする ecomo。今回はそこからもう一歩踏み込んだ、地域のための活動について取材しました。

（つづく）



特集：企業の取り組む地域貢献のひとつのカタチ



ecomo ショッピングモール

ecomo が助成金を創設したのは 2 年前。推進センターに広報等のご相談にいられました。宇多川さんは「まずは藤沢などで環境活動や地域のため活動をしている人が、何をしているか、どういう想いで活動しているのかを知りたいと思っています」と語りました。助成金の申請書も草の根の活動に向け、シンプルに、想いを伝えてもらいやすいように工夫したとのこと。

初年度は 10 件のお申し込みがあり、うち「湘南クリーンエイドフォーラム」、「自然保護団体 森戸川村」の 2 件が採択されました。この助成金の特徴として、活動にスタッフがボランティアとして参加する点があります。しかし、初年度の対象期間はコロナ禍の影響でボランティア参加ができませんでした。宇多川さんは「スタッフが活動に直に触れられなかったのがとても悔しいです」と、残念そうにお話されました。それでも、台風被害が申請のもととなった森戸川村へ現地視察に赴き、オリンピック観客を見越し翻訳機を申請したクリーンエイドフォーラムには代わりのものへの購入に切り替えるなど、柔軟な対応をしてきました。また、採択しなかった団体にもスペースの提供など、できることを提案してきたとのこと。

元々市民活動と親和性の高い理念や事業を持つ ecomo ですが、なぜ助成金を始めたのか。助成金を通じて目指していることとして、宇多川さんは次のように述べました。一つ目は、「助

成金などのバックアップを通じて団体が注目され、参加する方や団体が増える」こと。審査基準の一つに、「ecomo の理念に共感できるか」という項目があります。ecomo にとって地域の中に「人と地球にやさしい暮らし方」の価値を共有できる仲間を増やす取組となっています。もう一つは、「理念を通じてやっていることが社内の人にも浸透して、お仕事に対する視野を広げてもらう」ことです。社員間でも理念に向ける意識に差がある中で、それぞれの距離感を埋め、成長するきっかけにもしていきたいとのことでした。

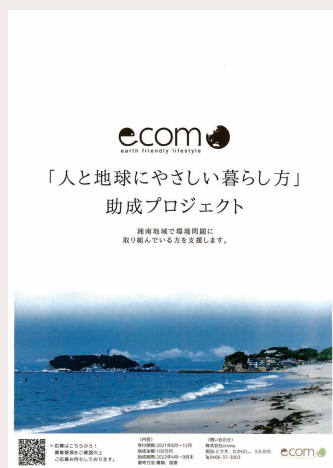


森戸川村の視察風景

助成金のご相談にいられた 2 年前には、当施設の交流事業、「フジソン」にもご参加いただきました。他の参加者からアイデアをもらう中で、地域の困りごとや解決の為の活動についてより広く知る機会になったとのこと。その後も子ども食堂への寄付ボックスを店内に置くなど、積極的に地域の活動への支援を広げています。宇多川さんは助成金を必要とする方に向けて、以下のようにメッセージをくれました。「主役は地域の人たちで、買い物、建築など生活のサポートをするのが ecomo。その地域を良くしたい方の背中を押すことができ、いいことをする人たちが増えていくとうれしいです」。助成金の申請締切は年末まで。詳しくは HP からご覧ください。

(取材と記事作成：関野)

ecomo 助成プロジェクト



ecomoには建築・リフォーム、店舗に「人と地球にやさしい暮らし方を衣食住で提案する。」という共通のテーマがあります。この助成金プロジェクトでは、ecomoの理念に共感し、湘南地域において「人と地球にやさしい暮らし方」を広げていきたい方々を対象に、資金面とボランティアで応援します。どなたでも、ご応募いただけます。「資金があればなあ。。。」「人(ボランティア)がいてくれたらなあ。。。」「そんなお悩みを、応募用紙を使ってecomoに教えてください。今、人にとって、地球にとってやさしいことを

取り組んでいて、ecomoにお手伝いしてほしいことがありましたら、教えてください。どんなことでも、真剣に審査させていただきます。

HP:
<https://www.ecomo-lohas.com/pickup/2800/>
助成金額：プロジェクト全体で100万円
締 切：12月末日
助成期間：2022年4月1日～2022年9月末



段々と年末が近づくとつれて季節の飾りなども移り変わってきましたね。毎年この時期は恒例になってきた12月の寄付月間を前に、資金調達などの相談も増えてきます。今回はその中でも先日実施したマネジメント講座でも紹介した資金調達で役立つITツールを活用ポイントも添えてお伝えします。

GoodMorning

クラウドファンディング大手「CAMPFIRE」のブランドの一つ。ソーシャルグッドをテーマにしたプロジェクトが多く掲載されています。分類としては購入型にはなりますが、公益法人であれば寄付型として起案することもできます。他サイトと比べ手数料が12%と負担が少ないのも魅力です。同様のサービスとして「Ready for」もチャリティーを強みとしているので、掲載内容やサイトイメージを鑑み、団体のカラーと合う方を

選ぶことをオススメします。

Syncable

寄付集めのプラットフォームとして、任意団体でも利用できる使いやすいツールです。キャンペーンとしてクラウドファンディングのような期間限定のプロジェクトを実施したり、マンスリーサポーターのような月毎の会費をいただいたり、といったNPO・市民活動団体にとって多くの場面で活用できるのではないのでしょうか。同様のサービスとして「congrant」がありますが、どちらも1000以上の団体が掲載されているので、まずは身近な団体や活動が掲載されているかチェックすることから始めてみてください。

どのツールもウェブ上で資金のやり取りが完結できることが強みで、コロナ禍またそれ以降を考えていくなか、皆さまの活動の一助になるツールと考えています。ただウェブ

にアップすれば良いというものではなく、アナログでの発信やプロモーションなどあわせて実施することでより成果があげやすくなります。

支援施設では上記のような資金調達ツールの活用に関して、ご相談も承っていますのでチャレンジしたい！という団体からのご相談お待ちしております。（さ）



◀ GoodMorning

<https://camp-fire.jp/goodmorning>

Syncable ▶

<https://syncable.biz/>



Even small donations can make a difference.



11月3日は文化の日ですが、毎年鎌倉市市民活動センター運営会議主催の「かまくらファンド」の審査会が行われました。本年は11団体の応募があり、6団体への交付が決定されました。「かまくらファンド」の原資は市民の寄付で、40万円を目標に1年をかけて寄付を募っています。団体のファンド部会の皆さんが、品物の寄付を元に資金に変えています。

大船駅の近くのたまなわ交流センターには、市民の皆さんが持ち寄った、絵画や漆器など所狭しと並んでいました。12月は寄付月間ですので、来年度の資金を集めるため、できるだけ多くの市民の方にアピールできるように工夫していくそうです。

本年も残すところ2カ月を切り、締めくくりが近づいてきました。「今年寄付しましたか」と改めて聞かれると、多くの皆さんは「NO」と答えるのではないのでしょうか。でも、気が付いたら寄付しているってこと結構あります。「いつも買っているチョコレートが寄付付きだった」「素敵なポーチがチャリティグッズだった」「近くのスーパーのフードドライ

ブに食料を持って行った」「しばらく海外旅行に行く予定がないので、手に残った外貨コインや小額紙幣を外貨専用の募金箱に入れた」「友達が書き損じハガキを集めるボランティア活動に参加していたので、手に残っていた年賀ハガキを渡した」など、コロナ禍であまり外出ができなかったけれど、探してみたら寄付していたかと思いだすのではありませんか。着実に少しずつではありますが、生活の中に「寄付」が根付いてきています。

社会の課題や問題が多様多様となり、公共サービスの担い手が行政や政府だけではなく企業や市民の領域まで広がっています。日常のちょっとした気づきを行動に変えることもそれほどハードルの高いものではなくなってきたようです。

Even small donations can make a difference. 小さくても寄付は違いを生むことができます。寄付月間の12月には、どのような寄付があるのか少し興味を持ってみませんか。何かが変わるかもしれません。（て）

講座・イベントの

ごあんない

イベント

日時

■プラザde学ぶ「『広報したいこと』を考える講座」	12月5日(日)	10:30～12:00
■ITサポート講座「パワポでプレゼン！」	12月6日(月)	13:30～16:00
■20周年イベント「被災地復興から考えるポストコロナの地域社会」	12月18日(月)	14:00～17:00
■六会公民館共催事業「KEEP LEFTプレートをつくろう！」	12月19日(日)	10:00～11:30

NEW!

支援施設からのお知らせ

■NPO 法人関連の押印廃止について

NPO 法人関連の各種申請・届出等に関わる書類の一部について、押印が不要となりました（令和3年10月）。

なお、これまでの押印欄のある各様式に基づいて作成した用紙は、当分必要な調整をして使用することができます。詳しくはQRコードのリンク先よりご覧ください。



■プラザde学ぶ「『広報したいこと』を考える講座」

「誰に、何を、何のために広報したいか」による広報の仕方、媒体の違いを解説します。2022年1月に行う市民活動紹介に向けた展示物の作成にもつながります。

日時：2021年12月5日(日) 10:30～12:00

会場：六会公民館2階 第1談話室

講師：生田 光弘（プラザスタッフ）

料金：無料

対象：NPO、ボランティア団体で活動している方

定員：20名

問合・申込：市民活動プラザむつあい

■ITサポート講座「パワポでプレゼン！」

団体の魅力を伝える「プレゼンテーション」について学び、それに多く用いられる「パワーポイント」の操作方法を学びます。

日時：2021年12月6日(月) 13:30～16:00

会場：市民活動推進センター 会議室 A

講師：藤沢市市民活動支援施設 IT サポーター

料金：1000円（資料代含む）

内容：プレゼンテーションのコツ・使い方等

対象：NPO、ボランティア団体で活動している方

定員：10名（先着順・貸出PC5台まで）

問合・申込：市民活動推進センター



■六会公民館共催事業「KEEP LEFT プレートをつくろう！」

楽しく作って交通安全！自転車につけるプレートづくりの交通安全教室です。

日時：2021年12月19日(日) 10:00～11:30

会場：六会公民館3階 ホール

講師：南八重 智子氏（KEEP LEFT PROJECT 代表）

師尾 公兵氏（六会地区交通安全対策協議会 会長）

料金：200円（材料費等）

対象：どなたでも

定員：40名

問合・申込：市民活動プラザむつあい

■20周年イベント

「被災地復興から考えるポストコロナの地域社会」

藤沢市市民活動推進センターは開設20周年。オンラインで記念イベントを開催し、特設サイトを設置します。オンラインイベントでは被災地復興や現在の活動からポストコロナの地域について話し合い、特設サイトでは登録団体のご紹介など、盛りだくさんでお送りします！

日時：2021年12月18日(土) 14:00～17:00

会場：オンライン（Zoom上）

料金：無料

定員：50名

対象：市民活動に関わる方や興味のある方

主催：藤沢市市民活動支援施設



■20周年記念特設サイト

開設20周年を記念した特設サイトについては、当センターウェブサイト上でご案内します。登録団体の皆様をご紹介する企画も実施予定ですので、ご参加お待ちしております。詳しくはチラシやHPをご覧ください。

発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00～22:00 火曜休館

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢 1031 GRAFARE FUJISAWA 2F

※ビル名が変更になりました

TEL: 0466-54-4510 FAX: 0466-54-4516

Eメール: f-npoc@shonanfujisawa.com



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00～19:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野 4-8-1 六会市民センター2階

TEL&FAX: 0466-81-0222

Eメール: f-npoplaza@shonanfujisawa.com

URL: http://plaza6i.f-npon.jp/



編集：認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構（藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体）

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております！
サポーターも随時募集中です！